

しんあい

季刊

2023年(令和5年)12月20日発行 第128号 ◆編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10
TEL 042-367-8801
<https://www.tama-dhk.or.jp/>
をぜひご覧下さい!



ハロウィンでみなさんと思い思いの仮装で楽しみました。(あさひ苑)

泉苑

- ・特別養護老人ホーム信愛泉苑
- ・高齢者在宅サービスセンター 泉苑ケアセンター
- ・府中市地域包括支援センター泉苑

緑苑

- ・養護老人ホーム信愛寮
- ・特別養護老人ホーム信愛緑苑
- ・府中市地域包括支援センター緑苑

あさひ苑

- ・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
- ・府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター
- ・府中市地域包括支援センターあさひ苑
- ・府中市高齢者住宅うらら多磨

神田事業所

- ・特別養護老人ホームかんだ連雀
- ・併設 定期巡回随時対応型訪問介護事業所
- ・高齢者あんしんセンター神田
- ・千代田区立岩本町ほほえみプラザ
- ・千代田区立かがやきプラザ相談センター

児童福祉

- ・母子生活支援施設網代ホームきずな
- ・母子生活支援施設白鳥寮
- ・子ども家庭支援センターしらとり
- ・府中市子ども家庭支援センターたち

◆ 社会福祉法人を考える19

◆ 私の施設の
自慢の職員PART5

◆ 施設だより
「ホッと心が温まる
冬の過ごし方」



社会福祉法人 を考える 19

～社会福祉基礎構造改革から24年 ③ 養護老人ホームを通して～

理事長 鈴木恂子



養護老人ホームは特別養護老人ホーム(以下、特養)とともに、1963(昭和38)年老人福祉法に位置づけられました。当時は特養より養護老人ホームの方が施設数も多く、介護より衣食住の生活を保障する施設のニーズが高く、老人ホームといえば養護老人ホームでした。住む家もなく、家族もなく、収入もほとんどない、働くことができない65歳以上の方が自治体の措置により入所されました。従って、多くの方々には身近な施設ではありませんでした(余談になりますが、この季刊しんあいのそもそもの発行目的のひとつは老人ホームの生活を具体的に発信すること、そして入所時の抵抗感を和らげることにありました)。

1970年代に入り、介護を必要とする高齢者が増加し、特養の開設が続ききました。新設が止まり縮小や特養への転換がすすむ養護老人ホームにかわり、特養が高齢者福祉施設の主流になりました。

1989年ゴールドプランから2000年介護保険法、そして現在に至るまで老人福祉の原点ともいえる養護老人ホームはほとんど議論されることもなく、それでも基礎構造改革のなかで施設の質的变化をかさねてきました。

今回は養護老人ホームのあゆみを整理しながら、改めて老人福祉施設の役割を考えてみたいと思います。

信愛寮いまむかし



信愛寮の居室。10畳の居室に5人のご利用者が生活していました(1962年頃)



バザーで自分で制作した作品についてお客様に説明をする信愛寮のご利用者(1973年頃)



信愛寮の居室(現在)。緑町に移転後は個室になりました



ボランティアさんに支えられた施設内の日用品販売

養護老人ホームのあゆみと現在

	1960 ～救護・保護から生活の場へ～	1980 ～生活の場の充実期～	2000 ～社会福祉基礎構造改革とその後～	現状と課題
制 度	1929(昭和4)年 救護法による救護施設 1950(昭和25)年 生活保護法による養老施設 1963(昭和38)年 老人福祉法による養護老人ホーム 精神・身体・経済・環境から勘案し、自治体が措置により入所を決定した。 老人保護措置費は事務費(人件費・管理費)と事業費(利用者の生活費)で構成、負担割合は国2/4、都1/4、市1/4。	1980(昭和55)年 費用徴収制度の導入 老人ホームの費用徴収基準改定案、4月取扱通知 ・前年分の収入から必要経費を除いて利用料を負担する(利用者及び家族から応能負担) ・利用者負担分が措置費単価を下回ったときは家族が納税額により負担する ・制度改定の趣旨は1福祉の公平性をはかる、2負担することで自立心を醸成するといわれた。	2005(平成17)年 老人福祉法の改正 ・入所要件から精神上の理由が外された ・措置費財源が地方交付税に含まれ、市の一般財源のなかで予算化される ・措置費の請求先が自治体(東京都は福祉財団)から特別養護老人ホーム(介護保険)と同じ国民健康保険団体連合会(国保連)へ変更となる。 2006(平成18)年 介護保険制度の特定施設の指定を受けることを可能にした	・生活に困窮した高齢者の多くが自治体から近隣県のサービス付高齢者住宅&生活保護適用となっている。養護老人ホームの措置より自治体の負担が少ないためともいわれている。 ☆住み慣れた地域での生活の継続は配慮されていない現実がある。 ・就労できない、家族がいない、住まいがない、虚弱化した高齢者が安心して生活できる場がない→孤独孤立化、ゴミ山積、ホームレスそして軽犯罪の繰り返し等々との生活困窮者への課題が顕在化している。
規 模	1960(昭和35)年 養老施設として白鳥寮の1棟と同一敷地に開設(27名)翌年増築により定員102名に 1962(昭和37)年 定員142名 翌年養護老人ホームになる	1980(昭和55)年 特養信愛泉苑増設に伴い定員100名に変更 1994(平成6)年 府中市武蔵台の敷地への都道計画により府中市緑町に移転。定員50名+小規模特養30名を併設する。	現在 定員50名 自立支援ショートステイ(府中市委託)4室 2011(平成23)年 併設した特養は増設により定員80名(含む地域密着型特養20名)となった。	☆一方、多くの養護老人ホームの利用率は80%を下回っている。
居 室	1962(昭和37)年 10畳タタミ室に5名(1名2畳が基準といわれた)。後に白鳥寮から一部転換を含み4人室、2人室へ	1980(昭和55)年 4人室、2人室、1人室 1994(平成6)年 緑町移転。2人基準で寝室の個室化、中央を居間にしたユニット的つくり。	各居室に、エアコン、冷蔵庫も整備され、個別にテレビも所有し、個室の質が向上している。 個室を中心とした生活をベースに、余裕のある共有スペース、喫茶コーナーがゆるやかな繋がりを生んでいる。	・老人福祉法の理念に基づく高齢者の福祉施設が高齢者のセーフティネットになることが望まれます。
生 活	衣食住の安心により健康回復した元気な方はそれぞれにできることを分担して、共同生活体ようになっていた。1970年代後半になると地域の老人クラブに加入したり、八ヶ岳合宿などで交流を深めていった。特別養護老人ホーム信愛泉苑の建設に積極的に尽力し、建築資金づくりのため、バザーで販売する作品づくりなどに取り組んだ(第1回バザー1973(昭和48)年)。	1980(昭和55)年 利用者及び家族への費用徴収制度により措置費に対する応能負担が始まる。 そのことに伴い施設内の自立した生活づくりが始まる。 月例会、懇談会、委員会活動、工房の常設 ・バザーの作品づくりは1989(平成元)年第17回まで続いた。綿入れ半てん、手編みセーター、七宝焼き、パンダ椅子など毎年好評を博し、手ごたえ十分!信愛寮のご利用者は活気に満ちている。	・緑町移転後は地域交流(老人クラブ)への参加もなく、個室の居心地の良さもあり、一部の方が生涯学習センターの利用等、個々の活動となっていった。 ・2000(平成12)年以降 措置の壁が高くなり、入所がかなり制限されてきた。結果、自立支援の入口から忍耐強く取り組む姿勢が重要となり、職員の専門性がより求められている。	・また、高齢化、虚弱化による要介護状態、医療依存、認知症の進行、障害の多様化、精神疾患、家族関係の複雑化等、入居者像の多様化とその対応に職員が追われ、求められる社会福祉援助技術を学ぶ機会を得ることが、困難な現実があります。
解 説	収容ではなく生活の場であること、老人福祉法の「老人は多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として敬愛されるときともに…」の理念を共有することに努めた。そして9月15日の敬老の日は元日より重要な日として職員全員が出勤してご家族とともにお祝いの日を過ごした。	費用徴収制度は約3割の方が対象となり、利用者に深刻な影響を与えたが、施設としては制度の目的を踏まえ、「利用者の自立」と「参加意識」の向上を目的に様々な新しい取り組みを始めた。 その中に、毎月全入居者が集合し、一か月間のスケジュールを確認する月例会や、少人数で生活課題を話し合う懇談会等、現在まで続いている大切な取り組みがある。	地域包括支援センター等から養護老人ホーム入所申込をすすめても、なかなか市から受理されない傾向があり、いわゆる措置控えの現状が全国の養護老人ホームで課題となっている。 その一方で、高齢者が抱える「介護」以外の課題が、制度からもれ現在に至っている。8050問題、セルフネグレクト、孤独死、高齢者虐待等、多様な形で表出している。	前号の母子生活支援施設と同様に2000年前までは一歩ずつ充実に向かってきた福祉施設が、自立・自己責任・市場原理の変革のなかで、まずは困っている人の生活の保障、安心安全の場という役割を十分に果たせていない。 今後福祉の原点ともいべき施設機能の回復を目指すことが最大の課題である。

※都道府県は都、区市町村は市と表記。

わたしの施設の自慢の職員 PART 5

多摩同胞会の正職員とシニア職員（再雇用職員）280名のうち、10年以上勤務している職員は154名（55%）もいます。新任職員も先輩職員からの育成、指導により、法人理念を実践するために日々励んでいます。このテーマも第5弾となりました。今回も法人の頼もしい職員たちをご紹介します。

かんだ連雀の自慢の職員

菊地 春美さん
(ホームリーダー / 介護福祉士・介護支援専門員)

いつも柔らかい物腰で、関わる人の気持ちを穏やかにしてくれる菊地さん。その優しさと誠実さは誰もが知る所ですが、私が感銘を受けるのは菊地さんの「心の強さ」です。
中々心を開いて下さらないご利用者から厳しい言葉をかけられたり、普通であれば落ち込んで立ち直れなくなってもおかしくない状況でも、誠実な姿勢を崩さず寄り添い続け、最終的に大きな信頼を得ている姿を何度も目にしてきました。福祉職としての揺るぎない意志と優しさを兼ね備えた頼もしい存在です。(ホーム係長 久米 洋平)

菊池さんよりひと言

かんだ連雀に配属されて早5年が経とうとしています。「終の棲家」としての特別養護老人ホームで仕事をすることで、発見することや、考えさせられることが色々ありました。毎日同じ方々と顔を合わせているため、相性が合わない方や距離の取り方が難しい方とどう接していくか、模索した時もありました。看とり介護を通じて、最期の時が近づいてきた方に自分たちは何が出来るのか、思いを巡らせたこともありました。

まだまだ試行錯誤の連続ですが、今ここに住んでいる方々と、ちょっとしたことで笑い合える毎日を大事に、皆様が安心して過ごしていただける場所であり続けたいです。



岩本町ほほえみプラザの自慢の職員

竹川 邦彦さん
(短期入所介護員 / 介護福祉士)

勤続年数16年。岩本町ほほえみプラザのショートステイに配属になり3年。ベテランとして後輩職員のお手本になるよう、日々働いてくださっています。
そんな中でも印象的なのは「話し方」です。ご利用者に対してはもちろん、職員に対しても丁寧な言葉使いで、その穏やかな口調と相まって、非常に良い距離感を生み出しています。
そういった、距離感の作り方は見習うべきところだと思っています。(短期入所係長 斗光 泰樹)

竹川さんよりひと言

滞在中のご利用者の生活をお手伝いさせていただきながら、自宅に戻られた時に困らないよう、手先の訓練として折り紙を行うなど、作品作りを楽しんでいただいています。
「最近、外に出る機会も減って、身体を動かすことが減った」等の話があった時には、有する能力を維持できるように体操の時間を作るようにしています。
活動の際には開始前からしっかりとお声掛けをして、参加して頂くなど、活動と交流の時間を意識して行っております。



かがやきプラザの自慢の職員

津留喜久江さん
(副業務責任者・相談員 / 社会福祉士)

入職当初、育成担当になってくださった津留さんには沢山のことを学ばせていただきました。ケースをどのように捉えたらいいのか、相談センターとしての役割はどういうことなのか、何より目の前の相談者の方とどう向き合っていけばいいのかなど、今でも津留さんの背中を見ながら日々勉強させていただいています。
迷ったときは津留さんに相談！いつも笑顔で受け止めてくださる津留さんは、相談センター内のムードメーカーでもあり飲み会にケーションの達人です。津留さんがいてくださることで、相談者の方だけではなく職員も明るく元気になれる大切な存在です。(相談員 小島 佳枝)

津留さんよりひと言

早いもので、私がかがやきプラザに配属されてから約8年ほど経過し、今は一番長く在籍している職員となっております。
入職当初は毎日のように誰かしらを九段下の日高屋にお誘いし、アルコールを嗜みながら飲談をしていましたが、新型コロナウイルス感染症のために1人での日高屋通いになり、今は体力の衰えにより、日高屋にも行かずに隣の九段会館で月を眺めて帰る日々です。でも、一人でいること、衰えることも悪くないと感じています。昔よりも人の気持ちに共感できる幅が広がったような気がするからです。



泉苑の自慢の職員

西村 友宏さん
(ホーム介護員 / 介護福祉士)

「自慢の職員は？」即答で、西村さんでした。
ご利用者からの信頼もあり、職員からも頼られる存在です。ご利用者対応は親切丁寧、しっかりとご利用者の状態も把握できていて、質問すればこちらが求める以上の回答が得られます。ご利用者からも、「西村さん今日いないの？」といった声も日々聞かれ、「自分があるのに…」なんてちょっとジェラシーすら感じてしまいます。
そんな信頼度抜群の西村さん、これからもさらなる成長、飛躍に期待しています。(ホーム2階係長 山崎 真人)

西村さんよりひと言

私はコロナ禍の真っ最中、泉苑に入職しました。沢山のご利用者の対応に戸惑いながらも、忙しい中でも絶対にはずせないご利用者の個別対応や施設全体、フロアで取り組まなければならない感染症の対応について学びました。
最近ではコロナの制限も少しずつ緩和され、ご利用者一人一人の生活の場が作れるようになって来たと思います。以前勤めていたグループホームの経験も活かし、ご利用者の日々の生活を楽しくしていただけるよう支援していきます。



緑苑の自慢の職員

岡根 穂澄さん
(地域密着型特養リーダー / 介護福祉士)

岡根さんには、多摩同胞会で唯一のユニット型特養である地域密着型特養のリーダーとして、ご利用者も職員もみんなが安心して頼っています。
ユニット型特養の特徴を活かしたケアができるよう日々奮闘している姿が印象的です。
これからも持ち前の明るさと、しっかりと見極めることができる経験値を活かしながら、岡根さんの優しい笑顔でユニットフロアを明るく照らし続けてくれることを期待しています。(地域密着型特養主任 齊藤 充子)

岡根さんよりひと言

地域密着型特養に配属され10年目になります。ユニットケアについてはまだまだ未熟だと思う事が多々あり、毎日足りない部分を自分なりに学んでいます。ご利用者が在宅からの生活を引き続き行え、「ここで過ごせてよかった」と思ってもらえるように日々頑張りたいと思います。



あさひの自慢の職員

安倍 宏之さん
(ホーム2階Aチームリーダー / 介護福祉士・介護支援専門員)

ご利用者にとって安心するのは、やはり職員の笑顔ではないでしょうか。安倍さんはいつも笑顔で温厚で丁寧です。私が推薦する理由は、ケアマネジャーも2階のリーダーも務めていて、いつも忙しくしている安倍さんですが、挨拶をする時には、歩きながらではなく、きちんと一度止まって会釈をしてくれることです。ご利用者の話を聞く時はいつも腰を落としてご利用者の目線になり、ご利用者の皆様がホッとする包容力があります。皆様も一度、人柄が良い安倍さんとお話してみてください。(介護員 横地千陽)

安倍さんよりひとこと

私が多摩同胞会に入職したのは、大学卒業後1年間就職をした後でした。学生の頃から思っていた「何か人の役に立つ仕事がしたい」との思いがふつふつとわきあがり、思いきって介護の世界へ飛び込みました。
入ってみると先輩や同期にも大変恵まれて、厳しい仕事だけれど人と接することは楽しいと感じました。現在はチームリーダーと兼任ケアマネジャーとしてご利用者一人一人に合わせたプランニングに取り組み、その人らしい生活を送って頂けるよう心がけています。ご利用者からは名前を覚えていただき、声を掛け合いながら楽しく日々を過ごしております。



うらら多磨の自慢の職員

うらら多磨ホームヘルパーの皆さん

府中市の北東のはずれに、小さなサ高住「府中市高齢者住宅うらら多磨」がありそこに併設しているのが訪問介護事業所「うらら多磨ホームヘルプサービス」です。今回の私の施設の自慢の職員は、うらら多磨で働くヘルパーさん達です。総勢13人ですがそのうち10人の方に集まっていたいただいた集合写真になります。住宅に住まわれている方を含め約50人の高齢者のお宅に、雨の日も風の日も休まず支援に行ってくださいます。皆さんの笑顔は、ご利用者の皆様だけではなく私の心の灯です。これからも健康に留意してお仕事よろしくお願いたします。(地域支援統括責任者 清野 哲男)

自慢の職員紹介を受けてひとこと

自慢の職員にヘルパー事業を上げて頂きありがとうございます。「ゴールドプラン2000」の合言葉を知っている方がどれだけの時代になりましたが、うらら多磨ヘルパーはその頃に介護の世界に入ったヘルパーさんが現在も支えて下さっています。
困っている人の助けをしたい。ご利用者の生きてきた証を共感したいと、強い志を持ったヘルパーさん達と共に、これからも住み慣れたご自宅での生活を支援して参ります。

(サービス提供責任者 高野 幸枝)



施設 だより



ホッと心が温まる 冬の過ごし方

連雀

家族への手紙



9月後半のある日の朝に「これ、出しておいてくれない？」とE様より一枚のハガキをお預かりしました。「敬老の日に孫からお花を買ったのよ。それのね、お礼。こんな手でしょう？時間が掛かっちゃった」と恥ずかしそうに話してくださいました。

ハガキの裏面には隙間なく感謝の気持ちがつづられていました。痺れが残る手でペンを握り、家族のことを想って一生懸命に書かれたのでしょうか。

私はそのハガキをE様自身が直接ポストに出しに行くことをE様に提案し、その日の午後近くに郵便ポストへ2人で行きました。E様は少し背伸びしてポストに投函をしました。帰りの道はE様の頬は赤らんでいましたが、きっと家族への思いが顔に現れたのだろう、と感じました。

ホーム介護員(介護福祉士) 鈴木貴史

岩本町

冬支度



もうすぐ100歳になるA様の趣味は編み物です。ひとりで黙々と編んでいることが多かったですが、最近是一緒に編み物をしてくれるボランティアの方が月に2回来てください、雑談を交えながら楽しく編み物を続けています。

冬に向けてマフラーを編み始めてから早何ヵ月か。おしゃべりしながら楽しく編むうちに、だんだん大きくなっていき、急遽マフラーからストールに変更して完成！現在2つ目の作品を編み始めています。

毛糸を選びながら「この色すてきな」「マフラーがいいかな」「ちよっと派手かな？」とお話しつつ、冬を暖かく過ごせるように今日も楽しく編んでいます。

グループホーム介護員(介護福祉士) 木村優佳

かがやき

冬に向けての 身体づくり



皆さんは自身の身体状態について、ご存じですか？新型コロナウイルスの影響で、運動をする機会が減ってしまい、相談センターで受ける相談においても「足腰が弱くなってしまった」「以前よりも物忘れが多くなった」という声を聞くことがあります。

ここ千代田区でもフレイル予防の取組みが行われており、先日「フレイル測定会」が実施されました。この測定会では、運動機能以外にも、認知機能や口腔機能の測定が行われ、参加された方々は自身の身体状態を知る良い機会となり、その結果をもって今後何が必要なのかを一緒に考えました。

これから寒い日が続きます。外出することが億劫になりがちですが、食事や休息を充分にとり、日々の生活に運動を取り入れながら冬に向けての身体づくりを行っていきましょう。

業務責任者
(社会福祉士)
齋藤鉄兵

私たちの自慢の職員

齋藤 絵里さん

(リフレッシュ保育担当/保育士・幼稚園教諭1種・社会福祉士・精神保健福祉士)

時間ごとに入れ替わる異年齢の子どもたちで毎日ぎわうリフレッシュ保育のリーダー齋藤さん。笑い声あふれるおしゃべり、安定感のある抱っこ、じっくり向き合う遊びで、子どもたちの心をキャッチ！細やかな心遣いと朗らかなトークで、保護者の気持ちまでも、ほぐしてくれます。

また、保育スタッフとも、たくさんコミュニケーションを取って安心安全な保育に真摯に取り組んでいます。さらには、仕事をしながら、社会福祉士と精神保健福祉士の資格取得をした努力家でもあるのです。持ち前の明るさや責任感や向上心を持って、たち全体を支えてくれる自慢の職員です。(次長 豊富 恵)

齋藤さんよりひと言

満1歳から理由を問わず利用ができるリフレッシュ保育は、初めてパパママと離れて集団に入るお子さんや発達がゆっくりなお子さんなど様々なご家庭が利用しています。そのため、どのようなお子さんも安全安心に過ごすことができる保育室を目標に、日々環境を整えています。それぞれのお子さんのびのび過ごす姿や保護者からの好意的な感想が、保育スタッフの励みになっています。

仕事をしながら資格を取得することは容易ではありませんでしたが、その状況を理解し支えてくれた職場に感謝しています。



事務局の自慢の職員

今井 誠さん

(事務局緑苑担当係長)

ストレスを感じずに業務に当たれるのは、まさに今井さんの人柄によるものです。困ったときには親身になって相談に乗ってくれ、速やかに解決に導いてくれます。

事務職とはいえ、業務は幅広く、施設の設備管理、建物・機器の修繕、防災設備の管理等多岐にわたり、そのいずれにも精通しており、この方なくして緑苑は語れません。

今年は勤続30年、プライベートでは初孫誕生と、公私ともども現在が一番充実しているらしいです。(事務局緑苑担当事務員 鈴木 律子)

今井さんよりひと言

現在は緑苑配属の事務局職員として、緑苑の窓口業務をメインに、経理、庶務、契約業務から、設備の修繕、職員からの相談など、多岐にわたる業務をチームで行っています。

ここ緑苑の事務所は、ご利用者、ご家族、業者の方、近隣の方の受付も行っていきます。緑苑の大事な顔にあたる場所です。

どんなに忙しい時でも、元氣な挨拶、笑顔で心掛けて、日々仕事をしています。



きずなの自慢の職員

阿相 奏恵さん

(母子支援員/保育士)

昨年は少年指導員として活躍し、現在も子どもたちから「そうちゃん」と慕われる阿相さんです。愉快で豪快な笑い方なので、響いてくる声の方向で居場所はすぐにわかります。

母子支援員としてはとって真面目で、事務処理が早く、なんでもテキパキこなします。また、阿相さんの強みは、持ち前の器用さ&マメさで、前職で積み上げてきたスキルはさすがだなあと学ぶことも多くあります。ご利用者の皆さんが笑顔に過ごせるよう一緒に日々努めています。(母子支援員主任 山中有佳)

阿相さんよりひと言

母子支援員は、入所した母子の母親担当として生活に関わる様々な相談に乗ることが仕事です。家事をお手伝いしたり、子育ての悩みを聞いたり、諸手続きに同行したり、福祉機関と連携を取ったりします。私は今年度から母子支援員として業務に当たることになり、不安や心配だらけでしたが、母子支援員の先輩方はみなさん優しく、丁寧に仕事を教えてくださるので安心して働くことができています。そんな温かい先輩方に恩返しができるよう、一人前の母子支援員になることを目指し、日々精進する所存です。



しらとりの自慢の職員

山田 梓さん

(少年指導員/保育士・幼稚園教諭)

昨年度までは保育士として乳幼児を担当し、4月からは少年指導員として学齢期の児童と関わり活躍している山田さん。現在の施設内学童は活発な子どもが多く、アクティブな関わりが求められます。個性あふれる子どもたちに対し、様々な工夫をして臨機応変な支援を実施できる適応力は抜群です。

時には優しく、時には厳しく、子どもの声に耳を傾けて接し、子どもたちから「あすちゃん！」と慕われる。また、行事や事務作業を任せれば的確に仕上げる。そんな信頼のできる自慢の職員です。(統括係長 小室 憲司)

山田さんよりひと言

今年度から少年指導員として学齢期の子どもと関わることになり、初めてのことばかりの日々ですが、同じ部署内に留まらず他部署の様々な先輩方のフォローと支えをいただいています。学齢期の子どもとの関わり方や信頼関係の築き方、時には叱り方まで、様々な角度から子どもを見てきた先輩方の話を聞きながら試行錯誤を繰り返しています。

圧倒的なスピードで成長していく子ども達に負けることなく、子ども達が安心できる居場所を提供できる少年指導員でありたいです。



あさひ苑

なにを編もうかな

長く暑かった夏も終わり、皆さんとの会話の中から「少し涼しくなってきたね。」などの言葉がちらほら聞かれるようになった頃、今年の冬に向けて「様子が編み物を始めました。」
「家族が面会にいらした時に、「昔、よく編み物をしていました。なにが編めるといいな、と思って。」とかぎ針と毛糸の差し入れがありました。」
フロアに戻ってからかぎ針と毛糸をお渡しすると、慣れた手つきでまず毛糸をほぐし、かぎ針を持つとあっとい間にくるくる丸いコースターを編み上げました。



「なにを編みましようか。」と尋ねると「うーん。」と考えていらつしゃいましたが、お孫さんに暖かいものをプレゼントしよう、と目下製作中です。

ホーム3階介護員(介護福祉士) 新合陽子

たっち

あったかごはん くたくさん 食べたよ

たっちには、休憩ができる総合受付とあそぶことが出来る交流ひろばがあります。
どちらの場所にも飲食コーナーを設けており、持ってきた食べ物を温められるように、電子レンジを設置しています。

たっちにあそびに来てくれるお子さんたちは、美味しそうなおはんやおやつを持ってつれづれに来館されます。

お昼時になると「チンツ」と音がなり、ホカホカになったあったかごはんを美味しそうに食べる子どもたちがいっぱいます。



たくさん食べてお腹いっぱいになった子どもたちが、元気にいっぱいになって、またあそびはじめの姿をみると、職員の気持ちもほっこり温まります。

総合受付担当(社会福祉士) 恩智温子

泉苑

笑顔あふれる、 あたたか選び。

11月5日に「お買い物イベント」を開催しました。おなじみのイベントですが、コロナウイルスの影響で中止が続いたため、ご利用者が会場で、ご自分の目で見て、さわって、好みの品物を手に取って選択できるのは、3年ぶりです。

さて、いよいよ当日。会場には、さまざまな衣料品がズラリと並べられました。職員が会場に案内すると、ご利用者の目が輝きます。あれがいいかしら、これがいいかしら、と手に取って悩まれる様子や職員と相談しながら、「これにするわ」と笑顔が見られ、とても楽しい時間となりました。

ホーム介護員(ヘルパー2級) 鶴野真由美



きずな

親子のきずなを 深めた 日帰り旅行

10月末、3年ぶりにきずなの一大イベントである日帰り旅行を実施し、親子で八景島シーパラダイスに行きました。

職員も久しぶりの日帰り旅行のため、ご利用者と一緒にご利用者と一緒にドキドキワクワクしながら当日を迎えました。当日は快晴となり、小学生の子どもたちはアトラクションに何度も乗り、保育のお子さんは初めて見るイルカや様々な魚たちに興味津々。乗り物が苦手なお母さんも、お子さんの乗りたい乗り物に何度も付き合ったり、お子さんが楽しんでいる様子を嬉しそうに写真や動画におさめようと撮影している素敵な親子のふれあいを見ることが出来て、心がほっこり温かくなりました。親子の楽しい思い出を記録にも記憶にも残すことが出来た1日になりました。



母子支援員(社会福祉士) 高橋風子

緑苑

みんな仲良く、 心もからだも ほっかほか

養護老人ホーム信愛寮のご利用者が活動をする際は1階の地域交流スペースに集まります。

今回の「どら焼きづくり」はエレベーターの改修工事期間中であったため、各フロアで実施することとなり、普段参加されないご利用者にもお声掛けし、多くの方に参加していただくことができました。

生地を作って焼いて、あんこを挟んで、ご自身で出来ることはしていただき、難しいところは職員がお手伝いしました。

生地をひっくり返す際に、上手くいくと皆で拍手!! あんこはこし餡と粒あんの2種類を用意し、お好みに合わせて、もちろん量もお好みで、焼き立て・出来立てのほんのり温かいどら焼きをみんなでおいしく頂きました。

養護老人ホーム支援員 S



しらとり

いっしょに遊んで 心もほっこり

保育室では、夏が終わわり涼しくなってきた頃からお散歩に行く機会が多くなります。

お散歩に慣れてきた頃から、お友達を思いやる優しい場面が増えてきました。

年下の子が立ち止まったり、疲れて座り込んだりすると「手つなごう」と優しく手を差し出す年上の男の子。年下の子はお兄さんと手を繋ぐと、それまでの様子が嘘だったかののように元気よく楽しそうに歩き始めます。お兄さんは歩くペースを合わせる事がほとんど上手になり、年下の子が転んだ時には「大丈夫?」と優しく声をかけて待っていてくれます。

最近はお兄さんと手を繋ぎたい気持ちでいっぱい職員の手を振りほどくほどです。2人が手を繋ぎ、とびきりの笑顔で仲良く歩いていく姿を見ると寒い冬でも心が温まります。



保育担当(保育士) 阿部泉妃

ニュース

I

しらとり

親子レクリエーション

気持ちのいい秋風が吹き渡るようになった9月の下旬。しらとりでは3年ぶりに親子宿泊行事を企画し、八ヶ岳方面へ1泊2日の旅行に行っていました。

1日目はBBQと道の駅での買い物。慣れない火起こしもお母さんたちと職員で協力して上手く火をつけることができ、たくさん食べて飲んで楽しい時間を過ごしました。2日目は牧場散策と信玄餅テーマパーク。牧場では間近で見られる牛や羊に大興奮の子どもたちで、親子で散策を楽しみ、大自然を五感で満喫しました。



2日間を過しました。
(保育担当 菅沼 由香)

ニュース

II

事務局

効果的な写真撮影

10月に広報推進会議主催の中村風詩人先生による写真研修が行われました。今回のテーマは「言葉と写真の方程式」で写真を飾る文字と連想させる1枚です。

文字が伝えられることは、大まかな印象や数字等の情報、抽象的な形や色であるのに対して、写真で伝えられることは、表現的な感情や仕草、具体的な形や色であるように文字と写真では伝えられる分野の違いがあること。

見落としてしまうことが多いですが、写真で伝えることを文字にするのではなく「添える必要がある文字」をキャプションにすることが、作品を深めていく大切なポイントな

のだと学びました。

(事務局 岩村 麻美)



ボランティアの御協力 ありがとうございます

(敬称を省略させていただきます)

板垣理恵 井上智美 大間洋子 おはなし夢くらぶ
梶田佳子 金子武仁 きずなの手 参遊浪三
高石稔 高倉祥子 田村知江子 坪山恵理 中村千代子
根深正子 美化tube 比留間洋子 ヘルマン
ハーブ琴和 Mr. マック (2023年9月~2023年11月)

— お詫び —

127号「2022年度決算報告概要」サービス活動収益及び介護保険事業収益の構成のサービス活動収益計が誤っておりました。正しくは「3,322,796千円」です。お詫びして訂正いたします。

御寄贈・御寄付ありがとうございます

(掲載を可とされた方のみのお名前です。敬称を省略させていただきます)

赤井あけみ 株式会社アビック 井口重昌 市川知子 江川昭子 公益財団法人オルクス宮内財団 菊池和彦 木村清子 具嶋郁子 黄美華 一般社団法人cornerstone・SHI・ZU・E 後藤桂子 子どものあそび場研究会 小林わか子 小柳亜樹子 近藤豊子 作馬麻穂子 下江美鈴 全国食支援活動協力会 相馬礼子 高橋ヤヨイ 滝沢冷子 株式会社包む テレビ朝日福祉文化事業団 栃谷さき 中田由香里 有限会社 庭商店 根釜洋子 野表治夫 長谷川和子 平野恵子 三門正史 宮崎清子 一般社団法人miraie 三輪孝子 村井福子 明治安田生命(相)千代田支社明和営業所 柳谷夏見 社会福祉法人読売光と愛の事業団 脇山令子 (2023年9月~2023年11月)

編集後記

私の冬の暮らし

汗をかかない冬に断捨離をして、すっきりした気持ちで春を迎えたいです。
(たっち 恩温子)

あったかい部屋で冷たいアイスクリームを食べるのが冬の習慣です。
(あさひ苑 千代田俊治)

苦手な虫も飛んでいない、寒いけど空気が澄んでいる冬の自転車通勤が一番好きです。
(きずな 高橋風子)

鍋が大好きなので、色々な味の鍋にチャレンジしたいです。
(かがやきプラザ 小島佳枝)

古き良き昭和を懐かしみ、ネコとこたつで過ごすひととき。
(緑苑 鈴木律子)

日帰り温泉に行つて、ゆつくり温まりたいです。
(岩本町ほほえみプラザ 玉城多美子)

今年の冬も、いちご狩りに行ってたくさん食べたい。
(緑苑 森正幸)

雪山と温泉、寒いのは苦手ですが今年こそは楽しみたいです。
(事務局 西郷加代子)

クリスマスプレゼントの件で、小学生の子ども達と一緒にサンタさんにお手紙を書きました。
(泉苑 堀内賢治)

職場も自宅も整理整頓を進め、快適な居住空間を目指します。
(事務局 青木志乃)

おとさきゆうバスで冬の東北温泉巡りをしたい。
(泉苑 内田亮輔)

12月生まれですが冬は冬の苦手です。できれば冬眠して春に目覚めたい。
(編集長 上野廣美)

介護に関するご相談は無料ダイヤルで!

●泉苑 老後支援 24時間
☎0120-6540-24

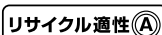
●あさひ苑 福祉にっこり 24時間
☎0120-2942-24



法人ウェブサイトはこちら

Facebook 更新中

採用情報サイトはこちら



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

